二十歳の誓い

新型コロナのニュースが報道され始めたのは、公立高校入試の合格発表を待っている時でした。初めはネットニュースの端だった記事がたちまちトップになり、残りわずかな中学生活や仲間との別れは、コロナによってあっけなく終わったのです。
高校に入学しても状況は変わらず、名前しか知らない先生から、使ったことのないアプリで課題が届き、分からないことがあっても、入学式で顔を見ただけのクラスメイトに聞ける勇気はありませんでした。

そして2ヶ月後、ようやく待ちに待った高校生活が始まったのですが、想像していたものとはかけ離れていました。まずクラスメイトと仲良くなろうと思いましたが、昼食時間は前を向いて静かに食べる。部活動が始まっても、目標となる大会は中止。活発が売りの文化祭ですごく楽しみにしていたダンスパフォーマンスも、事前に録画したものを教室に見にきてもらうというのは本当に味気ないものでした。
2年生の時は、文化祭も開催されませんでした。部活動や学習活動への規制は少しは緩和されたものの、ほぼ全てを経験していない私達の代はうまくいかないことばかりでした。「もしコロナがなかったら、もっと違う高校生活を楽しめたんと違うかなあ、私が知らへんかった楽しさがそこにあったんちゃうかなあ」こんな悔しい思いを持ちながら卒業し、大学生になりました。

やっと自由に活動出来るようになったはずなのに、毎日の授業と課題にバタバタと追われ、「新しいことに挑戦できていない！」そんな時に目に入ったのが、「二十歳の誓い」の募集でした。始めはもちろん不安でした。リアルな世界では、コロナの流行を経て、1人だけ違う行動をすることは許されず、他人からの視線や評価に過敏に反応してしまう風潮があります。以前から前に出て声を使うのが好きだった私ですが、なるべく目立たないように、なるべく人の目に留まらないように、無難に過ごしたいという保守的な考えをするようになっていました。
二十歳の誓いに応募するという一歩を踏み出した今、私は閉じこもっていた殻を少しでも破れたのではないかと思っています。祖母はいつも「今ある環境で全力で頑張り、楽しみなさい」この言葉をかけてくれました。いつまでもコロナを言い訳にし、閉じこもっているようでは大人にはなれない！今ある環境で全力で頑張り、今ここから第一歩を踏み出し、まずは管理栄養士の免許取得を目指して前に進んでいくことを「二十歳の誓い」とさせて頂きます。

令和７年１月１３日　小谷　美陽